

IDDNewsletter.....

9
September.
2021



特集

「和紙」とは

情報デザイン科では、2学年の科目「課題研究」の授業で身近にある野草を利用した「和紙」の制作を題材として取り上げました。「和紙」の上位概念である「紙」として考えると、現在はパソコンやスマートフォン、タブレットなどの発展を受けて、その有り様は少しずつ変わってきています。「和紙」のこれまで、そしてこれからを含めて、今回はその価値や魅力について考察していきたいと思います。

「和紙」とは

情報デザイン科では、2学年の科目「課題研究」の授業で身近にある野草を利用した「和紙」の制作を題材として取り上げました。「和紙」の上位概念である「紙」として考えると、現在はパソコンやスマートフォン、タブレットなどの発展を受けて、その有り様は少しずつ変わってきています。「和紙」のこれまで、そしてこれからを含めて、今回はその価値や魅力について考察していきたいと思います。

当初 2020 年に開催予定だった東京五輪、パラリンピックは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、1 年越しの開催となりました。開会式や閉会式において、開催国である日本の伝統を取り入れた様々なパフォーマンスが行われたのは記憶に新しいと思います。大会で上位入賞者には、もちろん金、銀、銅メダルが渡されますが、合わせて賞状を受け取っています。その賞状で使われている紙は岐阜県美濃市で作られている「美濃和紙」であったことを御存知の方はいらっしゃるでしょうか。

紙の誕生は中国の前漢時代の遺跡後から発見された麻紙が紀元とされています。日本で製造された和紙として、年代が分かるものでは正倉院に残る大宝二年（702）の美濃、筑前、豊前の戸籍用紙とされています。いずれもそれぞれの国で漉かれた楮（こうぞ）紙で、赤筋の混じる九州産楮や、おだやかな紙肌の美濃産楮など、現在の地元楮の特色がすでに見られます。

和紙の主な主原料には、楮（こうぞ）、三桠（みつまた）、雁皮（がんび）などが利用されています。

楮（こうぞ）は、和紙作りで一般的に使用されているクワ科の落葉低木で、成木は3メートル余になり、栽培が容易で毎年収穫されています。そのほとんどが高知県で栽培されています。本州と比べると日照時間、水はけの

良い土地、気候等の違いから北海道では生育が難しいとされていますが、道内で和紙に携わる作家が試験的に挑戦していることがブログ等で紹介されています。

はじめに紹介した美濃和紙は、この楮の性質である柔らかみのある繊細な風合いを持ちます。強靱で耐久性があり、薄くムラがない製品に仕上がっており、美濃和紙は、世界的にも非常に高い評価を受けており、各国における古文書や絵画など国宝級の文化財の修復にも使用されています。

現代における和紙の価値は、実用性も去ることながら、その品質の高さとブランド力が国際的に広く認められていることにあることがよく分かります。

北海道では江戸末期の松前藩で三桠を原料に紙漉きを行っていたという記録が残っています。その他、札幌や函館の監獄内で紙漉きが行われていたという記録もあります。現在では、幌加内町が笹紙（チシマザサの茎を原料とし、溜め漉きによる製品）、音別町では富貴紙（音別フキの皮のパルプを原料とした製品）が作られています。



パルプ（フキの繊維）

今回、我々が行った和紙作りは、フキとヤブカンゾウという野草を加工して制作しました。いずれも学校周辺で収穫できるもので、実際に採取に行くと自生している量の多さや、そのサイズに驚きます。山菜にも利用され、春には美味しく頂けます。銭函地域が、いかに自然豊かな場所であるかを改めて知ることができます。

フキは、御存知のとおり北海道全域で自生している、ポピュラーな植物です。足寄町では2m程まで伸びるラワンフキというものがありますが、我々が普段から見かける物はアキタブキという品種で、自生する場所によって大きさが変わってきます。

ヤブカンゾウは、これもフキ同様に山菜の一種で、湿った土地や水辺の縁付近によく自生しており、茎上部で分枝し、大きい物で80cm以上になるものもあります。

制作過程は、どちらも同様です。刈り取った材料を一度水洗いをし、煮熟（お湯で煮込み、皮に含まれる繊維をつなぐ成分を溶かす）、叩解（ミキサーを使って繊維を細かくほぐす）した後、紙漉きを行っています。試験的な部分もあり、本来の工程と比べると、かなり簡易的な工程で行っていますが、化学薬品は使わずとも、素材の特徴が分かる和紙を制作することができました。情報デザイン科に試作した実物がありますので、興味がある方はぜひ一度御覧いただきたいところです。



和紙を含めた全ての「紙」は、「素材」であり、そしてそれ自体が「民芸」です。使われてこそ作品となり、商品となり、形を成していくものだと思います。和紙の紙質や風合いは、洋紙とは異なります。繊維が繋がり合う模様、薄紙が光を受けた時の淡い表情は、和紙の持つ独自の存在感を醸し出します。

2000年頃からインクジェットプリンタによる和紙プリントの開発が本格的に開始され、現在では写真家が個展の中で和紙プリントを取り入れた作品を発表することもあるそうです。このように、和紙を効果的に活かす方法はこれからも様々な発展を遂げていくことが予想され、今から楽しみでなりません。

課題研究における和紙制作の集大成は、来年2月に行われる修了作品展での展示です。今後も野草を使った和紙の制作とその作品の研究を続けて参りますので、御来場される皆様には少しでも和紙の魅力を体感して頂きたいです。

参考文献 和紙の手帖Ⅰ、Ⅱ（全国手すき和紙連合会）

IDDN

Contents

特集

2-3 「和紙」とは

情報デザイン科では、2 学年の科目「課題研究」の授業で身近にある野草を利用した「和紙」の制作を題材として取り上げました。「和紙」の上位概念である「紙」として考えると、現在はパソコンやスマートフォン、タブレットなどの発展を受け、その有り様も少しずつ変わってきています。「和紙」のこれまで、そしてこれからを含め、今回はその価値や魅力について考察していきたいと思っています。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等専門学校専攻科情報デザイン科「学科だより」
をお読みいただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、第5波を迎えております。昨年度同様に、様々な学校のイベントが中止もしくは延期されるなど、スケジュールの変更を余儀なくされています。幸いにも本校では、感染者の報告はありませんが、まずは、この状態を継続していきたいです。制限がある中ではありますが、充実した学びのため環境整備に今後とも努めて参ります。



情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

September 2021 9

IDDNewsletter

September 2021

発行人／北海道高等専門学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等専門学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。